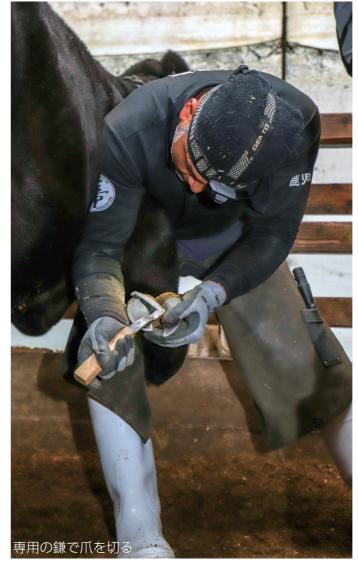
毎日、手入れする削蹄道具たち。左端の鎌は師匠の平澤津さん からいただいたもので、お守りとして大切にしています。

りたいです」 蹄大会の審査員を任されることもあり 指導級になると農業大学校の講師、 で最上位である指導級の資格を持って 接するときの礼節も重視して教えます」 「昨年まで2人の弟子を育てました。 仕事です。 深見さんは現在、 指導級は曽於地区内で2名のみ。 全国大会の競技委員を務めて いずれは全国大会の審査員にな 削蹄師の資格の中

第101回 実は隣のスゴイ人





さんの実家は牛の生産農家。

「牛の手伝いをする中で牛が毎日生き生

19年たった今でも、 ゝ···· = 『・··· | 蹄師のもとで技術を学ぶなど、常に向上優勝後も慢心することなく、北海道の削 心を持ち続けてきました。 師匠の背中を追い続 削蹄を始めて

る体力仕事です。 重に作業するため、腰や腕に負担がかか **大型の牛を相手に、体勢を変えながら慎** 削蹄師は1日に平 均10頭ほどを担当。

と笑顔で話します。 励みになります」 かったと思います。牛が気持ちよさそう 「爪を切った牛がせり市で良い評価を受 に立ったり歩いたりする姿は、 けたり、農家さんから足が良くなっ よと声をかけてもらうと、 やっていて良

蹄師は、技術だけでなく信頼が大切な るなど、後継者育成にも尽力しています。 削蹄大会後には後輩へ技術指導もす 技術はもちろん、農家さんと 削

Soo City Public Relations, 2025. 12. Japan

と今後の目標を話してくれました。

Soo City Public Relations, 2025.12. Japan

14

らの知り合いであった、末吉町出身の奥の警備会社に就職しました。学生時代か 鹿児島国際大学を卒業後、 畜産現場を支える役割を担っています。 牛が痛みなく歩けるようにすることで、 専用の鎌で蹄を削り、やすりで形を整え、 で病気になることがあります。 伸びすぎると歩きづらくなったり、 さんとの結婚を機に曽於市に移住。 ことで健康を守る専門職です。 した。削蹄師は、牛の蹄を切りそろえる 徳之島町出身の深見さんは大島高校、 鹿児島市内 奥

しませ 削蹄鎌を砥ぐなど道具の手入れはかか 蹄師の資格を取得。今でも毎朝・毎夕、 義父の知人であった平澤津美朗さんに弟 支える削蹄師に魅力を感じました」 きと過ごす姿を間近で見て、 Ų 1年間の見習い期間を経て削 牛の健康を

牛削蹄競技大会』では見事優勝を収め年、茨城県で開催された『第55回全国制蹄を始めてわずか6年後の平成25 だったのでまだまだ経験が足りないと思 きて嬉しかった反面、削蹄を始めて6年 「最初の目標であった全国大会で優勝で 平澤津さん以来15年ぶりの快挙でした。 ました。鹿児島県勢の優勝は師匠である